

平成二十七年

新年のごあいさつ



松浦市長
友広 郁洋

明けましておめでとございます。皆さまにおかれましては、清々しい新春を健やかに迎えのこととお慶びを申し上げます。

昨年は、45年ぶりの長崎県開催となる「長崎がんばらば国体」が開催されました。本市においては、三笠宮彬子女王殿下のご臨席を仰ぎ、さまざまな競技会を開催し、多くの市民皆さまのご協力を得て盛会裏に終了することができました。本大会の成功は、松浦市民皆さまの総力を結集しての成果であり、これからの本市の輝く未来に向けて、大きな自信と糧となりました。ご協力いただきましてすべての皆さまに改めて感謝を申し上げます。

さて、本市を含む地方の課題といまして、人口減少、高齢化の進行、雇用の確保がございます。昨年9月、国においては「まち・ひと・しごと創生本部が設置され、地方創生に取り組むことが示されました。

本市におきましても、結婚、出産、子育てなど、子どもを産み育てるための総合的な支援体制の整備、今福

定住促進住宅建設、空き家などの適正管理・有効活用、並びに市内工業団地への企業誘致の早期実現と農業、漁業をはじめ既存産業の育成・振興などにより、「住みたいまち、住み続けたいまちづくり」に取り組み、定住人口対策を積極的に進めてまいります。

本年は、念願でありました西九州自動車道の本市内で初の開通区間となります。山代久原・今福間が、この3月に供用開始となります。また、

昨年末に発表されましたJR九州による本市内への農業参入、さらに九州電力株式会社松浦火力発電所2号機の建設再開に向けて大きく前進するなど、本市がさらなる飛躍をするための環境が整いつつあります。今後は、これらの基盤を活かした地域経済の活性化やまちづくり、市民と行政が力を合わせて取り組んでいきたいと考えております。

本市の歴史文化に目を転じますと、鷹島海底遺跡において、昨年秋季に2隻目の沈没船が発見され、本年詳細な調査が予定されており、元寇船であることが確認されることを

期待しております。今後も引き続き、松浦市が国内の水中考古学の拠点となるよう、国、県、関係機関に協力を求めてまいります。

本年も、安全と安心の確保、交通インフラの整備、雇用の創出、地域経済の活性化の4つを柱とした施策を進め、市民が主役の住みよいまちづくりに力を注いでまいりますので、なお一層のご指導ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、本年が市民皆さまにとりまして、素晴らしい年となりますよう心から祈念申し上げます。新年のごあいさつといたします。



松浦市議会議長

鈴木 靖幸

新春を迎え、松浦市議会を代表いたしまして、謹んでご挨拶を申し上げます。

市民の皆さまには、市議会に対し、日ごろからご理解と協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、松浦市の昨年の一歩の出来事は、長崎中、長崎県チームは、演技競技では少年、成年ともに真勢初となる優勝に輝き、試合競技でも成年が3位という好成績を収めることができました。これもひとえに、おもてなしの心で国体を応援くださった市民の皆さまと、ご協力をいただきました。また、鷹島神社遺跡での2隻の建設再開に向けて新たな展開が見られるなど、将来への期待が膨らんだ年でもありました。

一方、全国に目を向けると、猛威を振っている自然災害への対応、原子力発電所の運転再開、環太平洋経済連携協定の交渉など国の将来を考えた大きな問題が数多くあり、景気の低迷は続き、地方における雇用と経済情勢は、一層厳しい環境に直面しております。

来を考えさせる大きな問題が数多くあり、景気の低迷は続き、地方における雇用と経済情勢は、一層厳しい環境に直面しております。

本市におきましては、地場産業の振興はもとより、企業誘致や既存企業の支援、さらには定住促進と交流人口の拡大に向けて実効性のある施策を展開しております。特に、今福町の市営東部工業団地の完成と西九州自動車道山代今福間の本年3月開通は、今後、雇用力のある企業の誘致を実現するための大きな足がかりとなります。市政発展に向けて行政と市議会が一体となり、取り組んでまいりる所存であります。

地方分権の推進に伴い、地方自治体の役割が拡大するとともに、市議会の責務は一層大きくなっていきます。市議会の果たすべき役割を議員一人ひとりが認識し、自己研さんに努め、松浦市発展に寄与してまいります。市民の皆さまにおかれましては、忌憚のない声を市議会に届けていただくとともに、変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が市民皆さまと松浦市にとりまして実り多き素晴らしい一年となりますことを心から祈念いたします。



オーストラリア・マッカイ市長

デイードリー・カマフオード

また、25周年を記念して、ビル・モロイさんとマーク・レイランドさんのお二人の両市姉妹都市関係に対する多大な貢献と支援を称えました。

私は、これまで姉妹都市間で成し遂げたことに誇りを感じますとともに、将来に渡ってこの関係がますます強くなっていくことを楽しみにしております。

昨年7月に両市長で盟約書に再び署名を行い、その盟約書にあるように私たちは教育、文化、経済の交流を図り、日豪両国の知識と理解を深め、さらに世界平和と繁栄に貢献することを確認しました。

毎年、マッカイ市で開催されている日本の子どもの日を祝うイベントなどを通し、これからも市民に対して日本文化や伝統文化を紹介し、今後この関係が実り多いものになるよう努めていきたいと思っております。